

鈴木恵理様インタビュー

経歴：

青山学院大学交際政治経済学部国際政治学士。英国サセックス大学院、現代紛争及び平和学修士。国際 NGO や財団法人などで災害緊急援助に従事後、2007 年外務省の「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」に第 1 期生として参加。同年、事業の一環でスーダン、ダルフルの PKO ミッションに国連ボランティアとして派遣（民生部門）。2008 年ユニセフ・シエラレオネ事務所にて JP0 として赴任後、シエラレオネ、南アジア地域事務所にて子どもの保護専門官として勤務。2018 年より子どもの保護専門官として東南アフリカ地域事務所勤務。

国際フォーラムインタビュー第 138 回

<http://www.unforum.org/unstaff/138.html>

2011. 4. 17 掲載

Q. 現在のお仕事について教えてください。

子どもの保護専門官 (Child Protection Specialist) として、ナイロビにあるユニセフの地域事務所で勤務しています。ユニセフには全部で 7 つの地域事務所があり、私のオフィスは東南アフリカの合計 21 カ国をカバーしています。仕事は大きく分けると二つあり、一つは各国事務所をサポートすることです。これは技術的なアドバイスのほか、知識や情報の共有を促したり、数カ国にまたがるプロジェクトの管理をしたりするほか、管理監督業務も入ってきます。二つ目は、地域のアクター、たとえばアフリカ連合 (African Union)、東アフリカ共同体 (East African Community)、南部アフリカ開発共同体 (Southern African Development Community) といった組織に働きかけ地域レベルのアジェンダを推し進めていく仕事です。地域事務所勤務は図らずして 2 回目ですが、グローバル及び地域の政策策定に関わることができずし、現場の現実から乖離しすぎてしまうこともなくなかなか面白いです。

Q. 2011 年に国連フォーラムのインタビューを受けて以降のお仕事について、そして今の仕事にいたるまでの経緯について教えてください。

2011 年は、ユニセフのシエラレオネ事務所で JP0 の 3 年目でした。4 年目に、

同じオフィスで Temporary Appointment と呼ばれる短期の契約で 10 ヶ月ほど勤務しました。この時、JP0 後の一つの目標となる P3 という一つ上のグレードに上げてもらうことができました（組織によってグレードの塩梅がかなり違うのでユニセフでの場合）。その後、4 年間ついてきてくれていた夫のキャリアを優先する番になりロンドンに移りました。ユニセフからは、1 年半完全に離職しました。その間は、リサーチ・メソッドのディプロマを取得したり、第二子を出産したりしました。この時、大人になってから、人生で生まれて初めて働かず日々を過ごすという経験をしました。最初は、いつか仕事に戻ることができるのか不安に駆られることも多かったのですが、半年も経つとすっかり楽しくなりました。衣食住を丁寧にし、仕事やキャリアに頼ることなくただ人間として立つということを学んだ大変意義のある時間でした。

この間、ロンドンにある仕事探しはことごとく上手くいかず、結局ユニセフの良さそうな空席公募があるとポツポツと応募していました。そしてひっかかったのが、ネパールのカトマンズにあるユニセフの南アジア地域事務所の子どもの保護専門官のポジションでした。そこで 3 年半勤めたあと、今のポストのためにケニアのナイロビに異動しました。この時に、もう 1 グレード上の P4 に昇進しました。

Q. ユニセフに戻る際の就職活動など、どのようにされたか教えてください。

空席に応募して普通のプロセスを経て採用されました。1 年半の離職はそこまで長くありませんから、知識が古くなってしまいうこともなく、また、当時は外部から応募してユニセフに戻るのが、今ほど難しくありませんでした。現在、COVID-19 の影響もあり、国連機関や ODA 全般の財政状況は不透明です。国連のなかでは比較的資金に恵まれているユニセフでも、現在一時的に、内部の職員を守るために外部公募を凍結しています。内部公募の数も多くありません。現在は、「モビリティ」と呼ばれる、空席が出たポストと同じレベルで同じ職種の人をまずあてがうという方式が中心になっています。その方式でポストが埋まらないと、まず内部公募が出て、それでも難しければ特別な許可を経て外部に募集広告が出ます。もう少しすればまた変わるかもしれませんが、こういった事情で組織を離れてまた戻って来るとというのが以前ほどは簡単ではなくなってしまいました。

Q. 現在お仕事をされる上で大事にされていること、価値観はありますか？

やはり情熱は大事だと思います。本当にその仕事が好きか、自分に合っているかを模索し続けていくことでしょうか。私が尊敬するリーダーたちを見ると、何らかの形で情熱を燃やし続けられるということが、長くやっていく上で必要不可欠だということを感じます。組織を愛している、専門分野にコミットメントしている、社会正義を実現する選択肢としてユニセフで働いている等々、みなさん形はそれぞれです。

国連の仕事に限ったことではないと思いますが、若いときは色々なことが新しく面白く、溢れるエネルギーでなんでもこなせてしまいますが、時が経つと色々な現実が見えてきます。例えば、私の従事する子どもの保護という分野は、保健や教育といった分野に比べ、なかなか成果が測れません。例えば、保健分野であれば5歳以下の子どもの死亡率が下がったとか、予防接種の普及率が上がったとか、データで成果が測れます。ところが子どもの保護の分野は暴力、搾取、虐待からの保護が定義で、例えば、どれだけ暴力が起きているかデータは世帯調査で取る方法があるのですが頻繁にはできません。この成果を測れない、測りにくいという分野の課題は、この10年でもあまり向上していないと私は思っています。子どもの保護は、子どもに対する暴力根絶を中心に、2015年に採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で初めて開発アジェンダに組み込まれました。国の発展に必要なだと認識されたのもつい最近のことで、セクターとしての成長も長い道のりです。それなのに、なかなか資金が付きにくいんですね。裏を返せば資金がつくような説明責任を十分に果たしてこなかったということでもあるでしょう。生活でも色々な問題に直面します。私の場合は、数年で赴任地が変わることをつらく感じ定住したいと強く思った時期がありました。子どもの教育のこと、日本の家族のこと、思案することはたくさんあります。途中で方向転換するのもいいと思いますが、いざしたくても、長く一つの仕事をしていると選択肢はそう多くはありません。

影響力を持った良い仕事するためにも、組織で生き残っていくためにも、良い評判を獲得していくことが大事です。私は、最初は評判というのは目立つことをした人が得られるようなものなのかなと思っていました。しかし、それは決して特別なものではなくて、日々の普通の行動が信頼のベースになると今は確信しています。組織でポジションが上がれば上がるほど人に知られることが増えてきて、評判はますます重要になります。何かを推し進めたい時、問題を解

決しなければならない時、就職活動で誰かのサポートが必要になった時など、自分がいかに信頼され自分も信頼できる人をもっているかで何ができるかが変わってきます。最近、ハラスメントポリシーが厳しくなったこともあり、照会（reference）がかなりしっかりとられるようになってきました。細部に気を配れる日本人の得意分野だと、プログラムの管理に長けることも信頼を得る良い方法です。特に、お金の管理はうまくいっているときは問題になりませんが、なにか起こると責任が重大で組織の評判にまで影響することもあるので、管理能力があることは高い評価につながります。

だからといって、地味にコツコツやっていればそれでよいというわけでもなく、埋もれずに自分の成果を隠せず周りに伝えていくのも大事です。組織での私こんなによいアピール競争は日常です。私はそれに疲れてしまいがちだったのですが、ある時から、これは仕事の一部でやらなくてはならないことだと思うようになりました。なぜなら、自分の担当している業務内容や分野の成果を売りこむことで、上からの注目が得られたり、もっと予算がついたり、国事務所が動いてくれたり等々、さらなる変化を生むことが出来るからです。また、自分自身の影響力があればあるほど、仕事へのインパクトも大きくなります。

Q. 外務省の平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業に応募される前は、NGOで主に災害緊急援助に関わるお仕事をされ、その後スーダンのダルフルで民生部門の国連ボランティアをされ、ユニセフでJP0をなさっていますが、子どもの保護という分野に興味をもたれたのはいつくらいだったのでしょうか？

初めて子どもの保護にかかわったのは、セーブ・ザ・チルドレンの2005年のパキスタン地震のオペレーションで働いた時です。日本からの資金と一緒に派遣されたのですが、受け入れ側のセーブ・ザ・チルドレン（今は一つになっていますが、当時は英国のセーブ・ザ・チルドレンでした）との交渉時に、教育と子どもの保護の二つプロポーザルがあるけどどっちが良いかと聞かれて、こっちの方が面白そうかなと選んだのが子どもの保護だったというのがきっかけです（ただし、子どもの保護は、ソーシャルワークや子どもに関する法律を勉強した人などがもっと増えるべき分野です）。その流れでJP0が決まったのでユニセフで子ども保護に進むのが一番自然でした。先ほど、子どもの保護のセクターとしての若さをお話しましたが、暴力、搾取、虐待から子どもが守られる

ということは何よりも優先されるべきことです。暴力は、個人の人生を大きく損ないますし、世代間で連鎖したり、また、国の発展にも大きくかかります。例えば、子どもたちが学校で暴力の恐怖を感じていれば教育の成果は上がりません。

国連と NGO という区分では、両方で働くことができてよかったです。NGO でプロジェクトを回すのは、受益者が目の前にいて、やることがはっきりしていて、成果も見えやすいので楽しいですし、こまごましたことも自分でやるので勉強になります。国連の仕事では（どんなに非効率だったとしても）深く政策にかかわり、より大きなインパクトを生み出せる（かもしれない）のが面白みです。国連の立場があってアクセスできる場所もあります。また、緊急支援というのは、お湯がないとか銃声が聞こえるとか勤務環境が過酷なことが多いので、一緒に仕事した仲間とのつながりが深くなります。人種や言葉の壁はこのような業界にもありますが、緊急援助は独特の一体感が味わえます。

ちなみに平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業に参加した後、PKO を体験してみたいという気持ちで UNAMID (African Union/United Nations Hybrid Operation in Darfur - 国際連合アフリカ連合ダルフル派遣団) に行きました。Civil Affairs (民生部門) はそれぞれのミッションによって仕事の内容が大きく違いますが、私は主に Quick Impact Projects といわれる、PKO がコミュニティに受け入れられるために展開する小さなプロジェクトの管理をしました。他にも情報を扱う JMAC (Joint Mission Analysis Center) というセンターの会議に出させてもらったり、DSRSG (Deputy Special Representative of the Secretary-General) 室のお手伝いをさせてもらったり、これぞ PKO といった場面に触れることもできました。また、PKO の混沌としたところ、その難しさを実際に目の当たりにし、独特の雰囲気も見ることができて面白かったです。UNAMID からプロフェッショナルポストで残らないかというオファーもいただいたのですが、JPO も決まっていたのでユニセフに移りました。

Q. 平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業に応募された理由、そして振り返ってみて、この研修は鈴木様にとってどんな意味があったのか教えてください。

この事業をどんな経緯で知ったのかは覚えていないのですが、仕事と仕事の合間で時間があり、タイミングが合いました。一番有意義だったのは、平和構築

の様々な分野の専門家の方がやってきて色々お話を聞かせてくれるという贅沢な環境です。いろいろな情報に触れられる面白さがありましたし、刺激を受けて PKO の世界を見てみたいとも思いました。また、同期の仲間とのつながりやネットワークができたのも良かったです。14 年経った今も篠田先生にお世話になったり、研修でお話をさせてもらったり、ありがたいことです。

Q. これからのキャリアプランについて教えてください。

現職について3年経過し、今年異動になる予定です。ここまでは、JPO 中は正規ポストの獲得、そして、P3、その次はP4を目指して・・・と目標はある意味単純でしたが、今後は、このまま同じ分野でつづけるのか、それともマネジメントに移っていけるよう努力したほうがいいのか、尊敬する先輩方に続くだけの気概が自分の中にあるのか、日々模索中です。プランはいつも通りありませんが（笑）、一度ははっきりとした動機付けが先に進むには必要だと思っています。あと、うちの場合は、子ども2人と犬2匹を含む家族は同居が前提で、夫がついてきてくれている期間がずっと長いとはいえ、お互いのやりたいことには協力するというのが基本姿勢です（文字にするのは簡単ですがその過程は決して簡単ではありません）。夫が博士課程を無事修了したので、もしかしたらついていく側になる可能性もあります。

Q. 平和構築、開発の分野で働くときにあったら良いな、と思う支援・サポートなどはありますか？

何かあったときに話を聞ける人がいる、そういうチャンネルは多く持つておくのとよいです。以前、難しい上司にあたってしまい苦戦したことがありますが、ユニセフにお勤めだった玉内アドバイザーに相談することができ、大きな支えになりました。キャリアで問題があるときなど、まわりの助けによってそれを乗り切れるかどうかが決まります。HPCはこのようなネットワークを提供してくれるのが大変ありがたいです。

Q. これから平和構築のキャリアを考えていらっしゃる方へのメッセージをお願いします。

楽しいと思うことを心のままにやり切るとことです。新しいチャレンジにワクワクすることができるのは若いときの特権です。それと同時に、どうしても資

金繰りに影響されてしまう仕事なので、世界の大勢がどのようなようになっていて、国連に資金がついているのはどの分野なのか、組織のトップの方向性はなにか、などにアンテナを張るとよいです。